# みうらトーク＆トーク　第３弾

日　　時　平成２０年８月１１日（月）
　　１４時００分から１５時００分
場　　所　神奈川県三浦合同庁舎　２階
　　健康教育室
参 加 者　三浦臨海高等学校生徒　５名
　　市側　１１名
テ ー マ　「少子高齢化についてなど」

内　　容

概要を説明（保健福祉部）

少子高齢化には少子化と高齢化の２つの要因があります。

まず、少子化の背景としては「晩婚化」や「出生率の減少」などがあります。高齢化については、「栄養状態の改善」や「医療、保健の環境改善」などにより寿命が延びていることが挙げられます。これらの要因により、少子高齢化が進み人口構造が大きく変化してきていると考えられます。

三浦市の場合は平成６年が人口のピークとなっています。昭和４０年以降の国勢調査の結果を見ると、昭和４０年以降人口がどんどんふえていますが、これは三崎下町を中心とした漁港経済や観光業の発展により、三浦市へ人が流入してきたこと。また、日本全体を見れば首都圏に人が集まってきて､三浦市がベッドタウン化したことが人口増加の要因として挙げられます。

その後、バブル経済の崩壊によって経済環境が変化したことにより、首都圏への人口の回帰現象が見られ、三浦市においては２０代から３０代にかけての若い世代の転出者の増加による社会減と、高齢化による死亡者数の増加が出生者数を上回っていることによる減少――自然減がおきており、自然減だけで年間２００人ぐらい減っている状況です。

転出による減少はここ２～３年は停滞していますが、平成６年以降の１０年間は年間３００人～５００人が減少していました。ちなみに、４万９，０３０人が今年７月１日現在の三浦市の人口です。

少子高齢化をデータから捉えるには、年齢を３区分にして捉える手法が行政では多いです。年少人口は０歳～１４歳、老齢人口は６５歳以上と分類して、その間の１５歳～６４歳を生産年齢人口と言い、高校生の皆さんも働いていなくても生産年齢人口に含まれています。

年少人口、老齢人口の国との差は、平成６年ぐらいまでは人口の増加に隠れてましたが、転出者は基本的に子育て世代が多かったので、平成７年度以降、国・県との乖離が見られるようになり、子どもたちは減り、高齢者は平均値よりふえていくような状況となっています。

三浦市の人口構造は昭和２２年～２４年生まれの団塊の世代が一番多く、団塊の世代の前の世代は第二次世界大戦により人口が一時的に減っています。

出生率については、戦後は１人当たり平均して５人の子どもを産んでいましたが、それが下がっていった結果、今は国平均で１．３人ぐらいとなっています。

昭和２２年～２４年の世代のお子さん――団塊ジュニアと言われているのが現在の３５歳を中心とした世代で、三浦市を国の人口構造と比較すると、第一次ベビーブーム世代以降の層が大分少なくなっています。国レベルで考えると３７歳前後、三浦市の人口レベルでは６００人ぐらいですが、ここが、国は横ばいで推移しているのに対し、三浦市は１９歳から３０代前半にかけて減少している年齢層があります。これは、この年代が三浦市から転出してしまったことが影響して、この層の人口が減少したことを表しています。

出生率は下がっているので、人口構造の表では若年層の人口が少ない不安定な形になっています。安定的な形というのは、若年層である下が広がっていて、年齢が上がっていくにしたがって小さくなっていく三角形の人口構造――人口ピラミッドと呼んでいますが、三浦市はこの人口ピラミッドとはかけ離れた状態となっています。

三浦市は少子高齢化が国平均に比べてかなり進んでいる状態――神奈川県内の状況で比較すると、県の中心部よりは県西地域の状況に似ています。

また、三浦市の出生率は低い状況であり、この傾向は当分続くことが予想されます。

意見交換

（市　長）

三浦市の少子高齢化の状況について子育て支援課長から話がありましたが、この課は、行政として小さい子どもたちをどのように支援していくかということを担当しています。説明でもあったように、三浦市の人口構造というのは老齢人口の構成比が極めて高い数字になっています。老齢人口が２５％以上というのは、神奈川県内でも三浦市、逗子市、鎌倉市などいくつか

しかありません。

お年寄りが多い人口構成になっていますけど、決してお年寄りばかりが多くてということではないのです。人生を長く経験してきたお年寄りの皆さんが、元気で暮らしているというのが三浦市なんです。

お年寄りがふえると、お年寄りが病気になって医療費がかかったりとか、介護保険の支出がふえたりということがありますけど、元気でいてくれるというのは決して問題ではないのです。

子どもたちが少ないというのは、これからの三浦を背負っていけるような――さっきも説明があったように２５歳くらいの年代が急激に減っているというのは、外に出てしまって三浦に戻ってこないというのが現実です。実際の人口構成からすると三浦市出身の人というのはたくさんいると思うのですが、三浦に住んでないというのが現状です。

三浦市では人口も４万９，０００人まで落ちていますので、このような現状を踏まえて人口をふやさなければいけないというので、いろいろなことをやっています。

皆さんが普段少子高齢化について感じていることを、三浦市に関連したことでもいいし、そうでないことでもいいですから、お話をしていただけたらと思います。

（生　徒）

高齢化が進んでいる中で、福祉サービスを充実しなければいけないと思いますが、三浦市ではどのようになっていますか。

（市職員）

介護保険で提供するサービスは全国一律に決まっています。けれども、施設が多い所とか少ない所とか――北海道では施設が多かったり、神奈川でも県央では少し多かったりということはありますが、サービスの種類は決まっています。サービスの量――施設と在宅がありますが、介護保険は在宅で、地域で一緒に暮らそうというのが基本理念ですが、どうしても施設に入らなければならない人たちがいて、施設が多ければいいと思うかもしれませんが、介護保険からすると、例えば、施設に入ると一人当たり、１ヵ月で３０万円ぐらいかかる。それを皆さんの保険料とか税金でまかなっています。ですから、施設に入っている人が多ければ多いほど、その市町村の高齢の方たちからいただくお金もふえてくるので、単純に施設が多ければいい、サービスが多ければいいというのではなく、サービスと負担のバランスがどのあたりがいいのかが重要になります。

（市　長）

体の調子がよくないお年寄りがふえると、サービスの量がふえるので、それだけ負担もいただかなければいけませんし、市民からいただいている税金を使わなくてはいけない傾向になります。サービスの種類には一定の基準があり、三浦市だけ劣後しているということはありません。ただ、三浦市独自のサービスをつくっていこうというのは――三浦市は老齢化率が高く、若い世代が負担をしなければいけないということで、三浦市だけでサービスをふやしていくことは現状ではできない状況です。決められたサービスはきちんと整っているというのが現状です。

（生　徒）

出生率が低くなって、年齢が低くなるほど人数が少なくなっていくのが現状ですが、三浦市としてはこのままではまずいですよね。このままでいくと将来の働き手がいなくなって、税金が市に入らなくなってくると思います。三浦市はこれらのことに対して具体的な対策などはあるのですか。

（市　長）

三浦市に人が住んでもらわなければいけないという前提がありますよね、そのためには三浦市の良さを知ってもらわなければいけないということで、「シティ・セールス」というんですが、三浦市はいろいろな面で住むにはいいところです、遊びに来てもらうにはいいところです、ということを市役所が中心になってセールスしています。

市の事業でいうと「シティ・セールス・プロモーション」といいますが、三浦市の良さを広く全国に知ってもらいたいという思いから活動をしています。ただ、それによって来てくれている方たちが何人いるかという実数はつかめませんが。

そういった意味で、三浦市を外へ PR して、三浦市の良さを前面に出した営業活動のようなことはさせてもらっています。あと、５０歳未満の方たちが三浦市に転入されてきた場合、引っ越しの費用になればということで、「住まい営業プロジェクト」といって１世帯１０万円を支給しています。ただ、これを受けるには５０歳未満であること、ボランティア登録をしていただくこと、市の広報に協力していただくことなどの条件がつきます。

これにより新しく転入していただいている方たちも少しずつふえています。

今は人口をふやすためのプロセスとして、三浦市のシティ・セールス――三浦市を売り込もうということを展開しています。

少子高齢化というのは日本全体の流れですけれど、神奈川県は首都圏にあり、東京に近く、

横浜、川崎などの大都市がありますよね。横浜市内、厚木などの県央地区、川崎市内ですとか、東横線沿線などは人口がふえています。横須賀市、三浦市、小田原市などの少し離れたところ――離れたところというか外回りですね――は減っています。横須賀の場合は大きな企業の撤退など直接的な要因もありますけれど、三浦市は一気にではなくて、徐々に減ってきています。それを徐々にふやしていけばいいということで、今いろいろな取り組みをしていますが、人口をふやすには何をしたらいいと思いますか。

（生　徒）

三浦にしかないものを何か――売り込んでいけるものがあれば、人は集まってくると思います。また、きれいな住宅街があればそこに住みたいと思う人はたくさんいると思うんです。もちろん自分が住むところなので、きれいなほうがいいじゃないですか。

あとは、若い人にウケそうなもの、それが生活しやすかったりしていけば人口は増えていくのではないかと思います。

（生　徒）

まず、観光客を増やして、三浦市をもっともっとアピールすればいいと思います。そうすればここがもっともっといいところだとわかるだろうし、そういう意味で、観光客をもっと増やしたほうがいいのではないかと思います。

（生　徒）

三浦は、夏の海がすごい人気があるので、それ以外のシーズンにもイベント的なものがあればすごい盛り上がると思います。

（生　徒）

三浦に住んでいますけれど、段々海が汚くなってきているというか――観光客の人もそうですし、地元の人がごみを捨てていくのも多くなっていくような気がして。海岸や海がもうちょっときれいになる方法がないのかなと思うんですね。

もうちょっとテレビでも三浦のことを特集してもらえるように、もうちょっと海がきれいだったり――三浦のイメージがもうちょっと良くなるような――観光客を楽しませてあげられるような……

（市　長）

横須賀市も人口は減って困っていて、三浦市と同じような施策を打っています。横須賀市は規模が大きいから、ひとつの施策についても重点的に資金を投入できるんです。

人をふやそうという施策はどこもいろいろやっているんです。

今、言ってくれた観光客をふやそうとか海岸や海をきれいにしようとか、そういったことはここ２～３年の間に強力にやっています。海などをきれいにしようというのは――ごみを捨てなければ拾わなくていいのだから、そういう意識で、実際に拾ってもらう、いわゆるボランティアですとか、スカベンジなどの活動に直接携わってもらって、拾うことがこれだけ大変なんだということをわかってもらえれば捨てなくなりますよね。そういったことを一生懸命やって、海岸の清掃などもかなり回数をふやしています。

それがどういった形で数字に表れてくるかというのが、まだつかめないのでそこがつらいところですけど。

三崎も「うらり」ができて、来遊客は、最初は６０万人ぐらいだったんですけど、今は１２０万人ぐらい来てくれています。そうすると相乗効果が生まれて、例えば下町で何か食べていってもらったりとか、城ヶ島に足を運んでもらったりとかということもあります。いろんな地区の皆さんが――やはり同じ思いですからね――観光客をふやそうということをやってくれています。

皆さんのお話は大体わかりましたので、ほかのテーマに入ってかまいませんので、どうぞ。

（生　徒）

観光客に来てもらうためにも、三浦市の交通安全をしっかりしたほうがいいと思いますので、交通安全についてお聞きします。横断歩道がないところを高齢者の方がゆっくり歩いたり若い人もけっこう走って渡ったりしていて危ないので対策を取ってほしいです。

（生　徒）

三崎口駅から三浦臨海高校への農道を車が、一時停止を無視したりということが垣間見られます。僕はこの農道を通って学校に行くんですけど、こういうのはちょっと怖いなというのがあります。

（市職員）

農道については高校生だけでなく、地域の児童・生徒に与える影響も大きいということですね。

（市　長）

そのような意見があったということは伝えなきゃいけないですね。

（生　徒）

夜間外出についてなんですが、夜中の１時とか２時に三浦海岸の駅前などに中学生がいっぱいいるとういう話を聞きました。それが最近どんどんふえているらしくて、やはりそれはいけないのではないかと思うので、取り締まりなどの対策はないのかと思います。

（市　長）

深夜の１時、２時のパトロールというのは警察に頼らざるを得ないですね。

夏の時期というのは子供たちが自由になるから――市役所を中心にして青少年問題協議会という大きな組織があって、そこで青少年指導員の皆さんとか防犯指導員の方がパトロールをしているんですね。この時期毎日やってくれています。ただ、それは夕方の時間帯とかなので――深夜にたむろしているというのは警察が注意してくれていますので、警察が指導するような形になると思います。

これは私のほうからも警察にはお願いはしておきます。

（生　徒）

年間を通して多いらしいんですけど、最近７月からどんどんふえていて……

（市　長）

わかりました。それも話しをしておきます。

（生　徒）

マンション開発についてですが、僕たちの高校の目の前に１００ｍを超える高層マンションが建つということで――反対をしにきたというわけではないのですが、いろいろ問題があるのでそれを聞いていただきたいと思います。

建てるまでの過程において、工事の騒音――工事が８月から始まりますよね、同時に８月の下旬に僕らも授業が始まります。授業を受けるに当たって窓を開けているとうるさいじゃないですか、とても授業に集中できる環境じゃないと思うんです。

本格的な工事が始まっていませんし、まだ身をもって経験したわけじゃないですけど、当然それは考えられると。そうすると窓を閉める、でも暑いじゃないですか、８月の下旬とはいえ、残暑もあるでしょうし。その暑いなか授業を受けるというのも、耐えがたいものがありまして――建ったあとの話になってしまうんですが、僕たちの学校にはソーラーシステムが取り付けてあるんですけど、ソーラーシステムも日陰になって機能しなくなってしまいます。あと、もうひとつ問題なのが、僕たちは住んでいるのではないので日照権などは当然ないんですけど、冬はグラウンドなども日陰になってしまって、おそらく寒い思いをすることになるのかと思う

んです。先生のほうからも少し移動をしてくれないかとか、いろいろ交渉はしてくださっているんですけど、なかなか難しいものなのかなというのがありまして、これを話すと尽きなくなってしまうので――特にソーラーシステムについては、県立高校でつけたのはうちが初めてだったんです。ソーラーシステムは県の土地だからとかいろいろ難しい問題があって、ソーラーシステムをつけるという話になったのは、公共施設にソーラーシステムをつけようというＮＰＯ法人の方々がいらっしゃって、それでつけようかという話になり、つけてくださったんです。このソーラーシステムでうちの学校の電力を賄っているんですが――　一番最初にソーラーシステムをつけたというのはとてもすごいことじゃないですか。それもなくなってしまうのは許せないというか、納得し難いものがあります。

もちろん授業の環境がこのまま悪くなってしまうので――工事に対してどうお考えなのかをまず聞きたいと思います。

もちろん人が来れば税金も入るし、この市にとってはいいことだと思うんですが、お願いします。

（市　長）

工事の騒音やソーラーシステムなどの個別のお話というのは、私は市長という立場でなかなかお答えはできませんけれども、基本的には三浦市は遊休市街化区域の開発ということであれば――いろいろな意見は出ているんですけれども、三浦市の将来を考えた場合には歓迎すべきことだという考えを持っています。ただ、それには前提として地域の住民の皆さんに納得をいただくようなきちんとした開発がされるべきだということです。

（生　徒）

１年生が入ってきたんですが、１年生の中からもここの学校は交通安全の面で大丈夫なのかということはお母さんや周りの人から言われたということを聞いています。その面に不安をいだきながら入学してきた子も少なくなくて、来年入ってくる子たちにも影響がでるのかと思うと、自分がいる学校の後輩として心配な面があるので、交通安全と学習環境の確保をお願いしたいと思います。

（市　長）

十分心得ています。何もしなければ何も動かないんです。これから新しくできる場所について、工事や契約の段階ではいろいろな意見はあるけれど、出来上がってそこへ来られる方々の気持ちも考えてもらいたいというのが率直な思いです。

外から来られた方が――周りで大きな反対運動が継続しているようなところに住みたくないじゃないですか。そういうのはきちんと着地をしなくてはいけないと思っています。

（生　徒）

観光客をふやすためにいろいろやっていると先ほど言われましたが、具体的に何をやっているのですか。

（市　長）

「シティ・セールス・プロモーション」といって、三浦の良さをホームページや、実際に市の職員が地域の人と一緒にいろいろなイベントの会場に出て行って三浦市の良さを知ってもらっています。また、三浦・横須賀・逗子・葉山で連携をしてパンフレットをつくって駅で配ったりということをしていますし、来ていただいた方に対してのおもてなしの心を持とうということで、あたたかいおもてなしをしようという運動などをやらせてもらっています。

京浜急行が動脈じゃないですか、京浜急行といろいろな形で連携をするようなことをやらせてもらっています。

あとイベントを冬場でも、毎月何かあるような組み方をしています。８月は花火があったりとか、地域のお祭りもたくさんありますしね。１１月には市民まつりをやりますし、暮れには三崎の港でまぐろのセールをやったりとか。お正月は初日の出をしたりとか。２月は桜まつり、これも三浦海岸の皆さんが中心になって小松ヶ池公園でやったりとか、スケジュールもダブらないようにやっています。

（生　徒）

この間の「ビーチクリーン神奈川」のスカベンジ活動はすごくいい活動でした。

（市　長）

三浦市はスカベンジ活動を頻繁にやっています。いろいろな企業と連携をして――この間の「ビーチクリーン神奈川」も神奈川県が主催して、三浦海岸で開催したんですけれど。あとＮＥＣとか２４時間テレビのボランティア活動とか、民間企業やボランティア団体との連携ということで海岸や岩場などの清掃活動――大体５０人から数百人規模まで、市役所の担当の環境課の職員は土日はずっと出ています、そのくらい一生懸命やっています。

（市　長）

そろそろ時間ですが、何かテーマがあったら、ぜひ市の担当と連携してもらっていろいろな意見を聞かせていただければと思います。

ひとつだけ私から話があるのですが、学校が始まると、宮田のバス停、七曲りのあたり、三崎口の駅の周りにごみがふえるという話を聞きました。生徒さん一人一人がごみを散らかさないようにしていただけるような運動をぜひお願いしたいと思います。

（市職員）

本日は、長時間ありがとうございました。

これでトーク＆トークを終了します。

※　公表については、了解を得ております。